

科目名	日本文学（近現代）					単位	2.0
担当教員	権田 浩美						
授業形態	講義	開講期間	後期	配当年次	1	授業番号	4404

●授業のテーマ

戦時下の文学—太宰治と中島敦

●到達目標

近現代文学作品の構造分析および、基礎的かつ正確な読みができるようになることを第一目標とする。そのうえで作品の時代背景等から見えてくる問題にも関心を持つことが出来る。

●学習内容(授業概要)

15年戦争という長い戦時下、しかも国策協力を強いられるような厳しい状況にあっても、芸術性を保持する作品を生み出した太宰治と中島敦の作品をとりあげる。

近代文学者の中で現在も親しまれている作家の一人である太宰作品の魅力は、自意識に振り回される人間存在の悲しみや苦悩の独白である『人間失格』ばかりに集約されがちだが、必ずしもそうではない。生得の〈道化〉的な資質から生み出された翻案作品群には、戦時下で書かれたにもかかわらず、奥深い味わいに満ちた〈笑〉が内包されており、今なお魅力的だ。

一方、教科書でおなじみの「山月記」の作家中島敦もまた太宰と同様自意識に翻弄されつつ、創作活動をしていた作家であるが、戦時下に『古譚』（「山月記」もその一つ）シリーズを書き上げている。

厳しい時代状況下で成った二人の作品には、共通するメッセージがあるのか。またそれは日本の〈近代〉が、明治期から15年戦争にまで至る過程の中で生じた歪みやゆれとどうかかわっているのか、考えてみたい。

●学習内容(授業計画)

〈後期〉

1. 授業のガイダンスと、太宰治と中島敦について
2. 太宰治『お伽草紙』—「癩取り」その1
3. 太宰治『お伽草紙』—「癩取り」その2
4. 太宰治『お伽草紙』—「浦島さん」その1
5. 太宰治『お伽草紙』—「浦島さん」その2
6. 太宰治『お伽草紙』—「カチカチ山」その1
7. 太宰治『お伽草紙』—「カチカチ山」その2
8. 太宰治『お伽草紙』—「舌切雀」その1
9. 太宰治『お伽草紙』—「舌切雀」その2
10. 中島敦『古譚』—「狐憑」
11. 中島敦『古譚』—「木乃伊」
12. 中島敦『古譚』—「山月記」
13. 中島敦『古譚』—「文字禍」
14. 中島敦『古譚』シリーズのまとめ
15. まとめ：『お伽草紙』と『古譚』シリーズに共通するもの

*授業の進度により、取り扱う作品の順序や内容を変える場合があるので、あらかじめ了承されたい。

●準備学習・事後学習の内容

授業前に指定された作品を必ず精読してくる。また課題として出された小レポートや感想を真摯に作成し、指定された期日に必ず提出すること。

●成績評価方法・基準

出席や受講態度（授業中の質問に対する発言、提出する小レポートや感想を含む）—30%
期末レポート、あるいは試験—70%

●テキスト（必携）

《No.1.》書籍名：『お伽草紙』、著者名：太宰治、出版社：岩波書店、販売先：(株)Do

*『お伽草紙』が入っていれば他の出版社のものでも構わないが、授業中に指摘するページ数等が異なるため、その点に気を付けてください。

●参考文献／その他

授業中にそのつど紹介する。

『古譚』シリーズや、必要な参考資料などは、プリントとして配布する。

●履修上の注意

事前に指定された作品を必ず精読してくる。

提出物の期日を必ず守ること。